

(5) その他

1) 補習授業

工学部は今年度も補習授業として下記のように実施した。

・補習教育:

本年度は、新入生ガイダンスの週の土曜に全新生に対して物理・化学・数学および英語 (TOEFL-ITP) の基礎学力テストを実施した。成績についてはWebCTに入力し、学生個人が自らの成績を閲覧できるようにした。今年度から英語試験を新たに加えたが、結果として、新入生ガイダンス期間中の時間確保が困難となり、土曜の終日をかけて実施した。入学時点の英語能力の評価には貴重なデータが得られたが、学部新入生にはややレベルが高く、負担が大きい、休日実施のため体調不良者への対応が困難などの課題も明らかになった。これらを踏まえて次年度からは、英語のみ2年次後学期に実施し、内容をTOEIC-IPへと変更することにした。

前年度と同様、物理・化学・数学について、成績下位の学生および希望する学生に対して補習授業を実施した。物理および化学の補習授業は、非常勤講師による講義と演習を5月の連休明けから毎週1回、合計それぞれ10回実施した。最初の受講者は物理で30名、化学で8名であったが、回を重ねる毎に減少し、前年度と同じ課題を残した。全ての補習授業の終了後に対象者に対するアンケートを実施した結果、①専門科目との繋がり(基礎科目の必要性)が十分に理解できていない、②開講時期を早期化が望まれる、③開講時間が学科科目、アルバイト、部活動や学科行事等と重複する場合があるなどの課題が明らかになった。対策として次年度はガイダンスの徹底とともに出席状況のフィードバックによって継続的な受講をより強く指導することとした。

数学の補習授業は、前学期・後学期とも新入生を対象に実施した。講師1名に学生5名以内のクラスを設け、個々の学生が履修中の数学科目について理解不十分の項目を講師に質問し、講師が個別に回答、解説する形式で補習授業を行った。述べ28名の受講者があり(参加は学生の自由意志)、前期5コマ・後期2コマの補習クラスを開講した。講師は工学基礎教育センターの教員3名とものづくり創造融合工学教育事業による事業担当教員3名で担当した。さらに添削コースも開設し、9名に添削教育を行った。

・基礎解析(留学生科目):

前学期と後学期でそれぞれ留学生を対象に開講した。前期は10名、後期は1名の受講者があった。ほぼマンツーマンに近い形で個々の学生の苦手とする数学科目の内容について、講師による丁寧な解説と問題演習の反復により、学生の理解の促進を図った。また、数学教育に加えて、プレゼンテーション演習を授業に組み入れることで、留学生の日本語コミュニケーション能力の向上も目指した。